

特集

男性育休と働き方

「男性育休」と聞いて、みなさんはどのようなことを思い浮かべますか？

「大企業なら取れるだろうけど」「取りたいけど、言い出せる雰囲気ではないし、出世やお金のことが心配」「取っても期間が短い形ばかりでしょう」「そもそも男性の育休って必要？」などでしょうか。



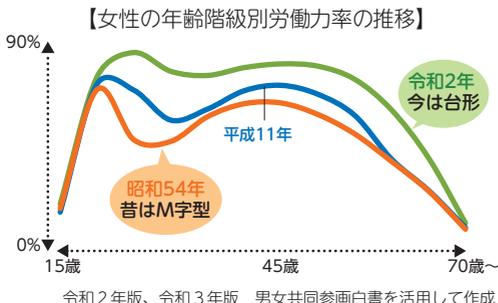
昨年行った丸亀市の企業アンケート※によると男性の育児休業取得率は7.4%で、女性は94.8%（昨年度の国の調査では、男性7.48%、女性83%）

と男女間で大きな差があります。

なぜ今、男性の育児休業なのか

①左図のように、昭和54年ごろは25〜34歳を谷とするM字カーブになっていました。谷のときに女性は、退職し出産・育児に専念する女性が多

出産後も仕事を続ける女性が増えてきた！



②出産後に日中も夜間もすべて一人で育児を担うのでは大変です。出産直後の母親が陥りやすい「産後うつ」は深刻な問題です。そのまま一人で育児を背負う状態になりかねません。

③女性が出産・育児等により離職してしまうと再就職は難しいのが現状にあります。

①②③に対応するため、男性育休は今の世の中で取り組む最善の解決策だと考えます。今回の「ゆめ」では、男性が家事や育児ができるようになるにはどのような課題があるのかを考え、実際に男性の育児休業取得実績のある丸亀市内の企業をご紹介します。

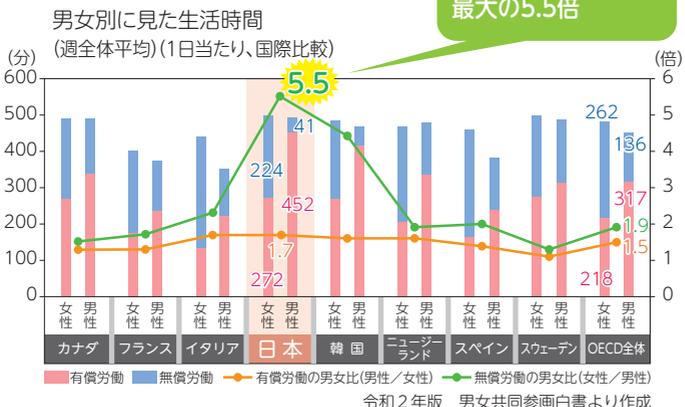
男性のみなさん、こんなお悩みありませんか？

①長時間労働で手一杯

左図のように、日本では世界と比べて、男性も女性も生活時間が、賃金

日本は男女ともに総労働時間が最長！

無償労働時間の男女比が大きいのは日本、最大の5.5倍



でも言い出さないと

②取得したい。

男性の育児休業は、日本ではまだ促進されていないため、職場での受け入れ方もさまざまです。人手不足などから仕事仲間に迷惑をかけると考え、言い出しにくい場合があります。実際に丸亀市の企業で、上司の方が「男性も育休取れるの？」と驚いた、という話を伺ったことがあります。

③育休をとったら、収入が減ってしまう...

育児休業中は、社会保険料の免除と合わせて賃金の実質8割が受け取れますが、受け取るまでの時間差があるため、生活費が足りなくなる心配もある

かと思えます。

また、①の長時間労働の問題で触れたように、男性の有償労働時間を減らしても収入は維持しなければならぬので、男性自身の時間あたりの収入が増えること、共働き世帯であれば、職場復帰した妻の時間あたりの収入が今よりも増えることが必要になってくると考えられます。

④制度が分かりづらい

子育てのための休暇取得には「育児・介護休業法」で定められた制度利用や、「育児目的の休暇制度（特別休暇）」が勤務先で設けられていれば、それを利用するなど、さまざまなバリエーションがあります。

また令和4年10月(予定)から、パパ休暇が発展した「男性版産休」とも呼ばれる制度も新設されます。活用の幅が広がるので、よく確認して、夫婦で話し合いの場を設けて交互に休みを取るなど、お互いが納得して利用できるようにすることが大切です。